

青森県立保健大学広報誌 活彩！保健大学だより

# Campus Magazine

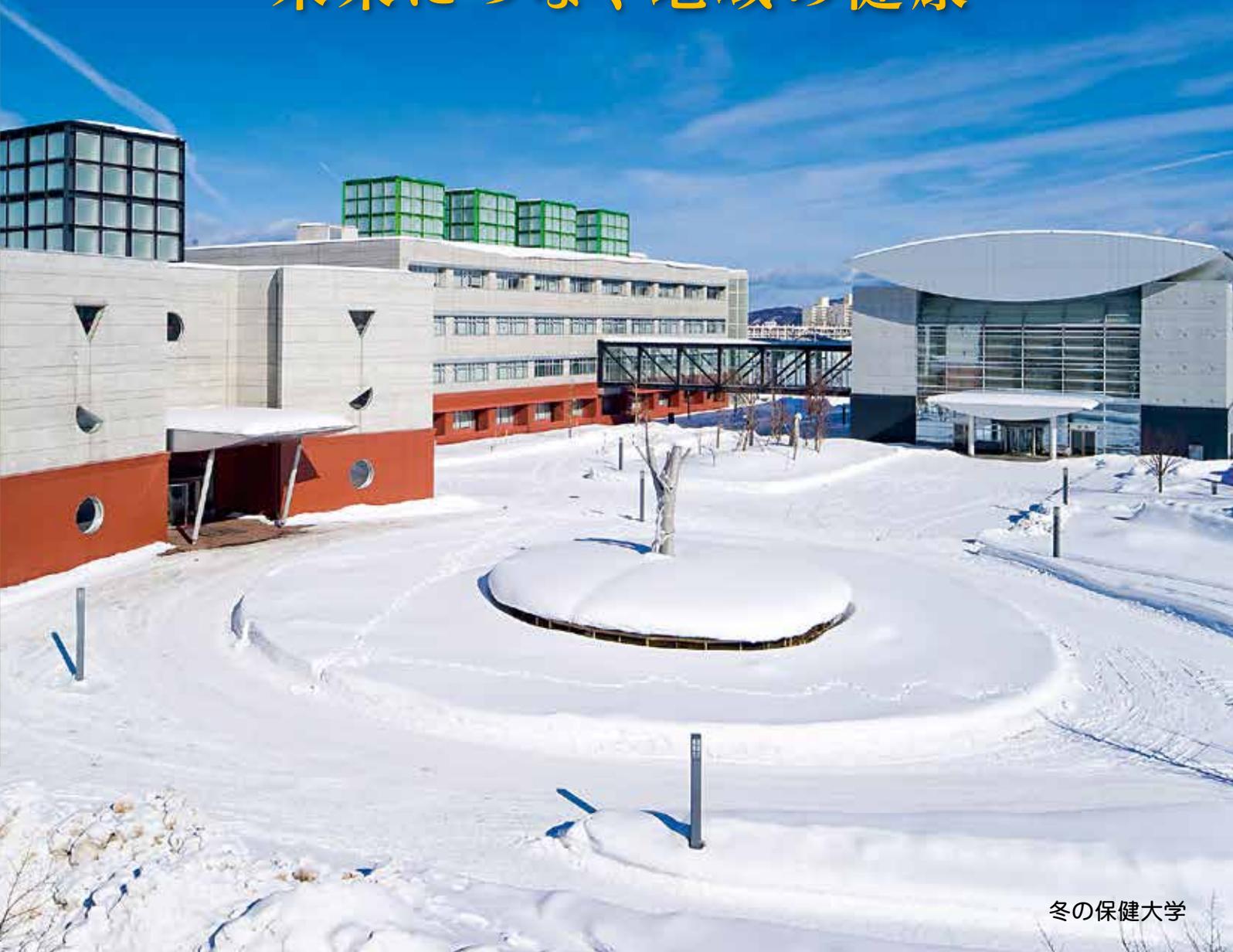
vol. **42**  
2018 冬



青森県立保健大学 開学20周年記念増刊号 **後編**

## 20<sup>th</sup> Anniversary

健康とともに20年  
～未来につなぐ地域の健康～



冬の保健大学



## 開学20周年に寄せて

同窓会会長 **越後 あゆみ**

(東北メディカル学院 理学療法学科専任教員)

青森県立保健大学が、開学20周年を迎えたという事実に、卒業生として驚きの気持ちと、喜びの気持ちと、懐かしい気持ちと様々な気持ちが沸き起こります。開学20周年、誠におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

私は、平成14年度理学療法学科4期生として入学しました。入学式当日の期待と不安での胸の高鳴りは、今でも鮮明に思い出す事ができ、入学してからの4年間はさらに色鮮やかに、昨日のここのように思い出す事ができます。クラスメイト、学科を超えた同級生、先輩、後輩、大学での出逢いは私の財産となり宝であることを、月日が経つごとに実感します。

「多職種連携」「地域密着」今では当たり前のキーワードではありますが、開学当初から保健大学では取り組み、その重要性を常に学ぶことができる環境であったと思います。その学びをもとに、今では地域に根付いた医療を提供しています。そのように活動していると、おのずと卒業生と再会することができます。悩んでいる患者様・利用者様について、相談しディスカッションできる、ともに悩み共感してくれる。卒業してもなお繋がりが続けることができるのは、学生時代に学び・考える時間を共有できたからだなど、強く感じます。

今でも学校に一步足を踏み入れると、学生時代の記憶が蘇り、新鮮な気持ちになることができます。母校の存在をありがたく思う瞬間です。最近では、保健大学に関する悲しいニュースを耳にする日もあります。それでも私たちにとっては母校です。20周年を迎えた保健大学将来構想は、～地域の“健康と福祉”の未来をリードする大学を目指して～だそうです。今こそ、今なら、卒業生が力を合わせれば地域の健康と福祉の未来をリードできるのではないのでしょうか。これからも大学と共に成長していきましょう！



平成30年10月6日、本学交流センターにて「平成31年度青森県立保健大学同窓会定期総会」が開催されました。総会では、2期に渡り会長を務めていただき、同窓会活動に多大なる貢献をしてくださいました、看護学科1期生の萬谷暁春様（2枚目写真左）に感謝をお伝えすると共に、花束を贈呈いたしました。

本学の同窓会活動につきましては、下記ホームページでご覧いただけます。

URL : <https://www.auhw.ac.jp/dousoukai/>



## 開学20周年に寄せてメッセージを頂戴いたしました

### 吉岡 利忠様 (弘前学院大学学長/本学名誉教授・元青森県立保健大学副学長)

貴学は20年間の歩みで超一流の高等教育機関となりました。卒業生、在学生のみならず教員、職員の不断の努力の結果でありましょう。卒業生はその分野でさらに力量を発揮し、在校生においては縦と横の強い繋がりと先輩の素晴らしい影響を受け、教育熱心な教員、専門性豊かな職員の皆さまに敬服しております。

### 伊藤 日出男様 (本学名誉教授) 隣の国の家族介護

10数年前、釜山市内の障がい者宅を訪問した際に、家族の介護が行き届いていてさすが儒教の国と感心しました。逆に障がい者の自立心を損なわないかと心配になりました。

将来、若い力が日韓双方の地域リハビリテーションの発展に寄与するようお願いしつつ、交流に尽力された理学療法学科の皆様に敬意を表します。

### 木村 ゆかり様 (看護学科2期生)

在学中に「看護婦・士」が「看護師」に統一され、先生方が専門職としての看護を熱心に教えてくださったこと、自分の年度から国家試験に必修問題ができ、緊張して試験に臨んだことを思い出します。現在教員として学生と一緒に学ぶ中で、改めて看護の素晴らしさを感じています。

### 岸 直也様 (理学療法学科5期生)

開学20周年、おめでとうございます。20年前、私は中学3年でしたが、新設の保健大学へ入学したいと思い始めた頃でした。現場で働き、最近思うことが多職種を尊重し協働することが重要ということで、大学で学んだことがようやく身に染みてきました。20周年、本当におめでとうございます。

### 佐々木 茂伸様 (社会福祉学科1期生)

第一期生として学び、卒業後は青森県内で働いていた私ですが、平成18年に急性リンパ性白血病を患い、県立中央病院での治療を経て一命をとりとめました。

現在は、地元岩手で働いておりますが、私にとって青森は大学生活の思い出の場所であり、命を救われ、命の大切さを知ったもう一つの故郷です。

### 柴田 俊様 (栄養学科4期生) あの頃、栄養学科で学んだこと

私は栄養学科の一学生として、講義や演習、実習などの管理栄養士になる為に必要な事を学ぶことができました。大学で学んだ科学的根拠に基づいた考え方は、臨床の現場での発言になくはならないもののだと実感しています。

勉学だけでなく、サークル活動や大学祭などの活動でも充実した学生生活を送っていたなあと今でも思い出します。時に競い合い、時に助け合い、苦楽を共にした同じ栄養学科の仲間達との思い出は一生の財産です。これから先も大切な思い出がたくさん生まれる栄養学科であってほしいと思います。

## 平成30年11月に新自治会長が選任されました

### 平成31年度自治会長 昆野 太雅 (理学療法学科2年生)

この度、自治会長に就任した理学療法学科2年の昆野太雅です。私は昨年より自治会に所属していました。この一年の中で新入生宿泊研修や大学祭運営に携わることで自治会としての仕事の難しさを知りました。これを通して個人での仕事の限界を感じ、協力の必要性を学びました。

今年の大学祭は例年に比べて、20周年企画があり学生や先生方の多大な協力がありました。また学内だけでなく、外部企業の方々の企業協賛、また当日の出店など多くの方々の協力の上で成り立った大学祭であったと感じています。

先輩方が作り上げてきた20年から、私たちの代でさらに新たな一歩を踏み出し、これからよりよい青森県立保健大学を作り上げていきたいです。その第一歩の年の新自治会長・自治会として、学生間の交流、地域の方々との交流を増やし、学生の積極的な地域参加により、勉学に限らず、人としての成長に繋がるような活動をしていき、「健康とともに20年-未来につながる地域の健康-」という20周年のメインテーマに合った活動をしていきたいと思っています。

地域の皆様に魅力のある大学であると思っただけのよう、自治会一同活動していきます。自治会長として、自治会のメンバーと学生の積極的な協力のもと頑張っていきます。

本学の自治会活動につきましては、下記ホームページをご覧ください。

URL : <https://www.auhw.ac.jp/seikatsu/jichikai/>



平成31年度自治会員の皆さん



# 青森県立保健大学 20年の歩み(後編)(2009-2018)

2009(平成21年度)



●イベント出演するモーリー

マスコットキャラクターの「モーリーとリンリン」が誕生しました。青森の「森」とりんごの「りん」から命名しました。モーリーは、青森県立保健大学ロゴマークから作られました。トレードマークは胸のハート。本学の教育理念である「ヒューマンケア」の心を現しています。

2010(平成22年度)



●じょっぱり隊記念写真

ケア付き青森ねぶた実行委員会への共催を開始しました。障がい者、高齢者の青森ねぶたへの参加を支援する「ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊」に学生もボランティアとして参加することで、ヒューマンケアにつながる多くの学びがあり、この取組は、現在も継続されています。

2011(平成23年度)

## 学生センター (Molley's Room モーリーズルーム)

求人情報、過去の就職試験の情報、活躍している先輩の情報などをいつでも見ることができます。



●学生センター開設 (Molley's Room/モーリーズルーム)



●八戸サテライト開設 (～2014/平成26年)



●もち小麦

八戸サテライトでは、青森県緊急雇用創出対策事業を活用し、もち小麦による機能性食品開発業務を行い、もち小麦商品の開発による産学連携及び雇用創出に取り組みました。



**岩手県野田村支援 (～2016/平成28年度)** 未曾有の被害をもたらした東日本大震災に直面し、被災者の方々に少しでも寄り添いたいと岩手県野田村にて支援を開始しました。ボランティア活動内容は、学生が自ら企画し実施するものでしたが、支援の過程で野田村の皆さんから逆に力をいただくことも多くありました。支援は、村内の仮設住宅すべてが閉鎖された平成28年度まで実施されました。野田村と学生の交流は、現在も続いています。

2012(平成24年度)

●栄養学科1期生卒業



●全学合同新入生宿泊研修開始 (復活)



●メディアスペース (図書館) オープン



## 2013 (平成25年度)



●シミュレーション・ラボ供用開始



高度な専門性と豊かな人間性を備えた、教育・研究・実践に従事する人材の育成のため、関東以北の医学部が設置されていない医療系単科大学では初のラボとして、当時、開設されました。

## 2014 (平成26年度)

●入学式

●第3代学長 上泉和子就任

●学生寮開設



## 2015 (平成27年度)

●COC+事業への参画

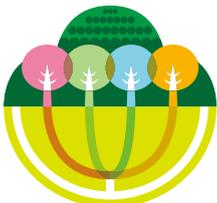
この頃から、現在も実施される大学の主要な事業が次々と精神的に立ち上げられています。

●健やか力 (ヘルスリテラシー) 向上サポート宣言に基づく活動



## 2018 (平成30年度)

●ヒューマンケアの担い手を育む「青い森のカリキュラム」スタート



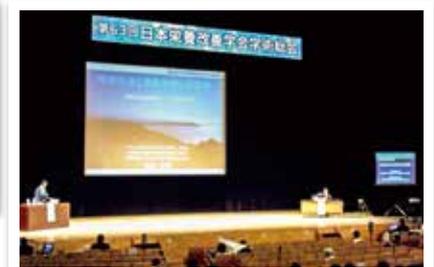
カリキュラムをイメージしたロゴです。4つの学科が人々の健康に寄与するという同じ“根”を持ち、つながっていること、地域という土から栄養を得て豊かな森を育むことを示しています。

- 将来構想の策定
- 開学20周年記念式典

## 2016 (平成28年度)

●第63回日本栄養改善学会学術総会 青森市で開催

本学栄養学科教授・吉池信男を大会長に『食を通して、つなぐ・つながる 人、知恵、技』をメインテーマとして、東北では17年ぶり、青森では初の開催となりました。



●リンクステーションホール青森を主会場とし、様々な講演やワークショップが行われました。



青森県立保健大学の理念と意志はこれからも続きます。

# 青森県立保健大学は、地域の“健康と福祉”

## 基本方針

- ①地域で活躍する人材を育成する。
- ②ヘルスリテラシー向上への取組を核とした健康科学の教育／研究拠点となる。
- ③大学の成長・発展に資する職員を育成し、戦略的な大学経営を進める。

## 重点施策

人材を得る

重点  
施策  
1

### 入学者選抜改革

地域の保健、医療及び福祉に貢献する学生の選抜・確保



人材を育成する

重点  
施策  
2

### 青い森のカリキュラムを軸とした学生の育成

専門性を活かし、地域で活躍する人材の育成・輩出



人材のキャリアをサポートする

重点  
施策  
3

### キャリアの見える化とキャリアサポートの充実

キャリアサポートセンターの開設  
卒業生が得られるキャリアや地域で活躍する姿の見える化



健康課題に施策提言する

重点  
施策  
4

### 健康科学の研究拠点化

健康科学センターの開設  
地域の健康課題等を研究し、施策提言する「知」の拠点化



施策実現の土台となる大学組織を強化する

重点  
施策  
5

### 大学組織の強化

大学事務職員としての専門性の推進、組織体制の強化



# の未来をリードする大学を目指します！

## 青森県立保健大学将来構想とは？！

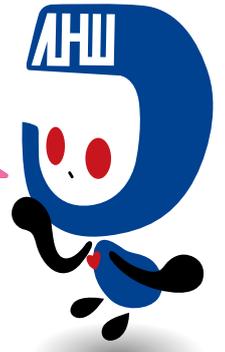
青森県立保健大学は、今年度開学20周年を迎えました。

これを一つの節目とし、社会情勢の変化や大学改革等の動向を的確に捉え、今後も地域における知の拠点としての役割を果たしていく必要があると考えます。

このため、2025年度を目標年度とし、本学に期待される役割と機能を改めて検証のうえ**目指すべき目標を明確にする**とともに、**その目標に向けて重点的に取り組んで行く施策を取りまとめたもの**であり、本学として初の試みとなるものです。

青森県立保健大学将来構想についての詳細は、こちらからご覧いただけます。

URL：<https://www.auhw.ac.jp/about/enkaku/files/shouraikousou.pdf>



## 地域の保健、医療 及び福祉に貢献

- ・ 専門性を活かし地域課題を解決する人材の輩出
- ・ 地域包括ケアのリーダーとなる高度専門職者の輩出
- ・ 地域の健康課題に関する研究成果の還元
- ・ 産学官金の連携強化による地域産業活性化・地域課題の解決



地 域

## 開学20周年記念事業基金受入状況について

### 開学20周年記念事業基金 寄附者御芳名録

平成31年1月末時点の寄附合計金額は、10,537,640円となっております。

#### ●法人

株式会社シバタ医理科  
青森県立保健大学開学20周年記念事業祝賀会  
青森県立保健大学同窓会

#### ●個人

宮野 真璃絵  
宮崎 春美  
宗村 弥生  
吉池 信男  
石田 賢哉  
二本柳 志保  
守岡 謙  
田中 栄利子

平成30年7月1日～平成31年1月31日（御寄附年月日順、敬称略）  
ご芳名の掲載を希望されない方につきましては、掲載しておりません。

## 開学20周年記念事業基金利用状況について

本学へのあたたかい御支援、ありがとうございます。開学20周年記念事業基金について、皆様からいただきました御支援について、平成31年1月時点での利用状況を御報告いたします。なお、最終的な収支報告につきましては、2020年3月に本学ホームページに掲載する予定です。今後とも、御支援いただきますようお願い申し上げます。

## 開学20周年記念式典記念講演開催 (H30.6.2)

「生きているってすばらしい  
～命・健康・ヘルスリテラシーを考える～」

講師 鎌田 實氏  
(諏訪中央病院名誉院長)



## 開学20周年記念ストラップ作成

広報活動の一環としてストラップを作成し、平成30年6月2日開催の記念式典への来場者、本学教職員及び本学学生に配付いたしました。



## 交流センターカウンター・椅子50脚の設置

学生の利便性向上の為、食堂として利用している交流センターにカウンターを増設し、椅子を50脚設置いたしました。



## ヘルスリテラシーカレンダー作成

県民の健やか力向上を目指し、平成27年度から大学をあげて取り組んで参りました「健やか力（ヘルスリテラシー）」普及活動の一環として、日めくりタイプのカレンダーを作成し、教職員及び実習施設等に配付いたしました。



## パーティション10枚購入

学修環境改善に必要な物品として、各種発表会、オープンキャンパス及び大学祭等にも利用することを目的にパーティション10枚を購入いたしました。



## [PROG] 実施 ～新カリキュラム (第5次) におけるヘルスリテラシーに関する教育成果測定事業～

知識を活用して課題を解決する力(リテラシー)と経験を積むことで身に着く行動特性(コンピテンシー)を客観的に評価できる、外部の標準化されたテストであるジェネリックスキル測定・育成ツール[PROG; Progress Report on Generic Skill]を学生に実施いたしました。このことと、ヘルスリテラシーと連携力、地域志向性を測定する調査を合わせて実施分析することで、新カリキュラムの評価及び今後の教育改善に役立てて参ります。

青森県立保健大学 開学20周年記念事業企画プロジェクト



公立大学法人 AOMORI UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE

青森県立保健大学

〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1 電話 017-765-2000(代表)・FAX 017-765-2188 URL <https://www.auhw.ac.jp/>